

云う。考古家の鑑定では七百年以上経たものであると言われている。

【内潟村と鴨の狩猟】

中里駅より約一里、十三瀨に面した往時八瀨郡の主要地であった関係上史跡が頗る多く「クルミ族の跡」「多賽塔」「原人穴居の跡」「吉田松蔭東北巡遊休憩所」などがある。

また、鴨の狩猟地として有名である。九月下旬より内潟湖に渡来する鴨の群が水平線上に重なり合って恰かも胡麻を播いた様である。

津軽発祥の地相内村の古跡

今より八百年の昔相内村には、十三福島城があつて、少なくとも人口一万人以上の城廓市街を為し、背後の山々には所謂十三千坊と称せらるる寺院が達並んで居た事が明らかになつて、近年その遺跡が続々発見せられてゐる。記すべく紙面が許さないのでその輪郭のみでもここに記したい。

福島城趾

大字相内字實取及露草にあり後白河帝の保元年間に築造せられたもので、北海の関門警備と王城鎮護の重任を帯んで居たことはその宏壯な規模に依つても窺れるが、史蹟研究の泰斗喜田博士をして「平泉の要塞を除いたら斯る規模の広大な要害堅固なものあるまい」と嘆称せしめた。

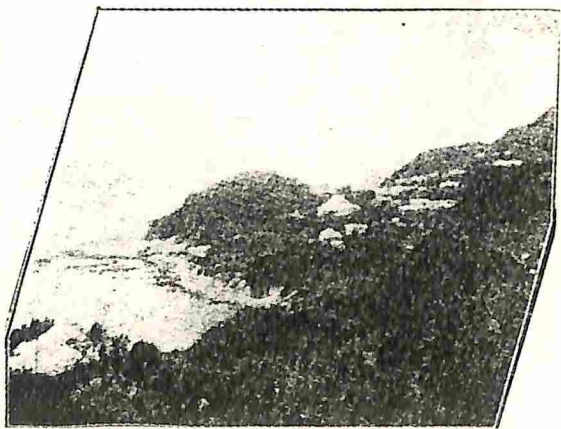
山王坊阿雲寺

十三千坊の主要部であつたらしく、大樹が密生し幽邃の地である。右の外「古墳の跡」「禅林寺跡」「龍興跡」「唐川城跡」等があり、我が国史の上から見ても重要な価値を有する遺跡に満たされている。

権現崎と小泊港

巖壁重畳海面を抜く事約八百尺、岩に砕くる白波を脚下に俯瞰し日本海の大海原を隔てて遙に北海道の連山を指呼の間に望、雄大なる権現の眺望は県下に於いても指を屈せられているが亦小泊港の海辺は漁具をあさつて舟遊びや海水浴を試みるには眺え向きの処である。不幸にも従来は交通不便の為、一般行客を引く事は出来なかつたが本鉄道の開通に依つて津軽中里駅から自転車にて一時間半にして達しうる事となつた。

権現崎の絶勝は限りある紙面に尽くすことは出来ないが、脇元から北は至る所奇勝に満たされ「折戸の思案坂」「夫婦石」「弁天崎」「柴崎城趾」「姥島の峻坂」「土標の浜」「経島」「羅漢石」等枚挙に遑がない。若し時間が許すならば舟を竜飛崎に廻して「七ツ石削立数百尺の絶壁」「穴洞の崎」「土人の遺跡」「七ツ瀧」等の風景を賞する事が出来よう



小泊港・下前ノ景

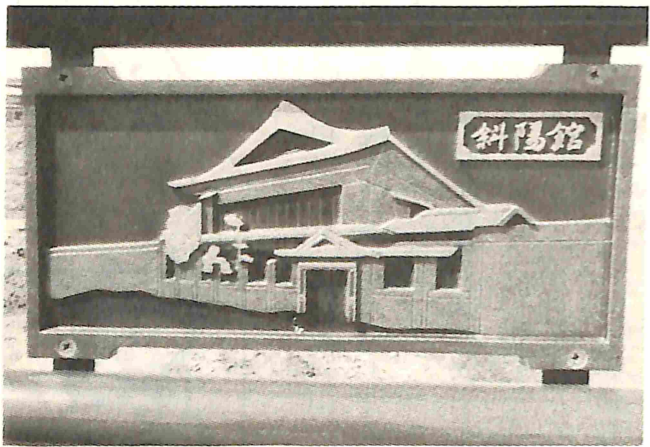
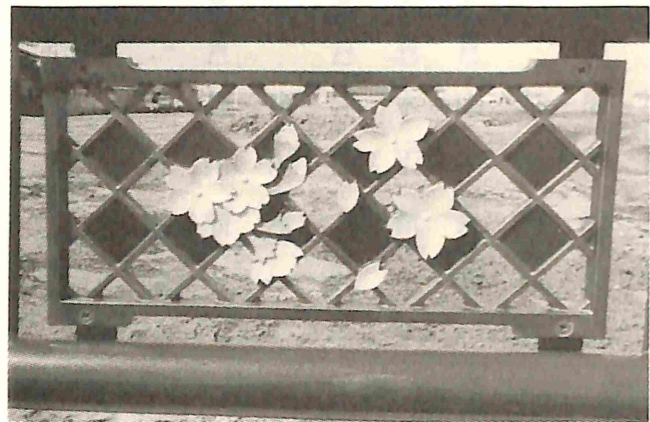
不許
複製

昭和五年七月一日印刷
昭和五年七月五日發行

著者 森 五所川原町
發行所 津軽鐵道株式會社
兼印刷者 小山 吉
印刷所 同 所
電話 署名所 四八二

昭和五年五所川原を基点に中里まで津軽鐵道が開通、物資も活発化され地域も發展した。その開通記念に沿線案内図が発行された。当時としては他に例を見ない旅行のパンフレットであつたらう。観光案内のさきがけと言っても過言でない。野呂郁三蔵書原本より復刻

金木スケッチ 新 金木橋モニュメント

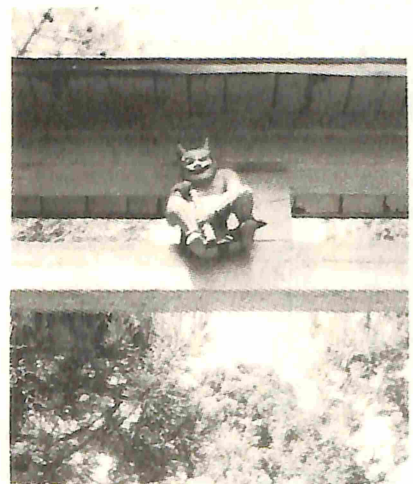


芦野公園の桜は弘前公園に次ぐ桜の名所、津軽三味線の元祖は神原の仁太坊、太宰治の生家は斜陽館、これは金木町のシンボルだ。金木川河川付替えて、金木病院寄り昭和十四年三月新金木橋が竣工。この新橋の欄干に三味線、さくら、斜陽館のモニュメントを取り付け、道行く人々の目を引いている。



鬼ツコ居ダー
津軽の鬼ツコを統率しているのが、鬼

鬼ツコ 居ダー

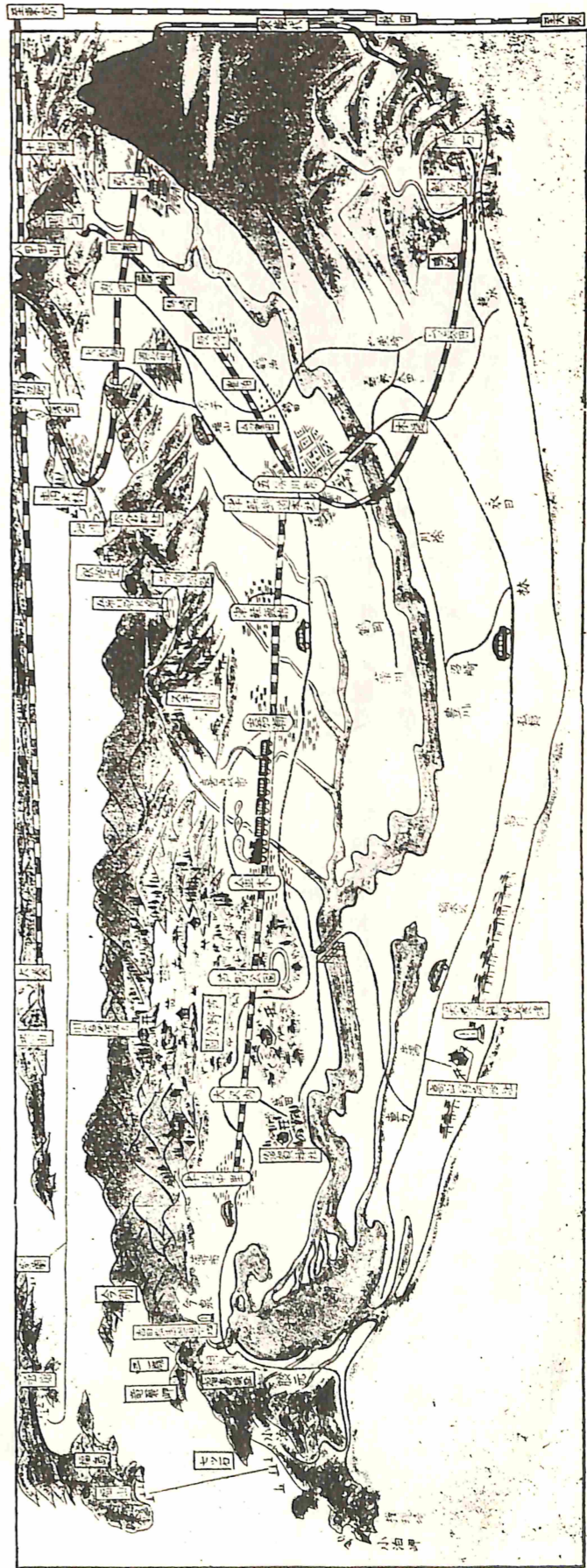
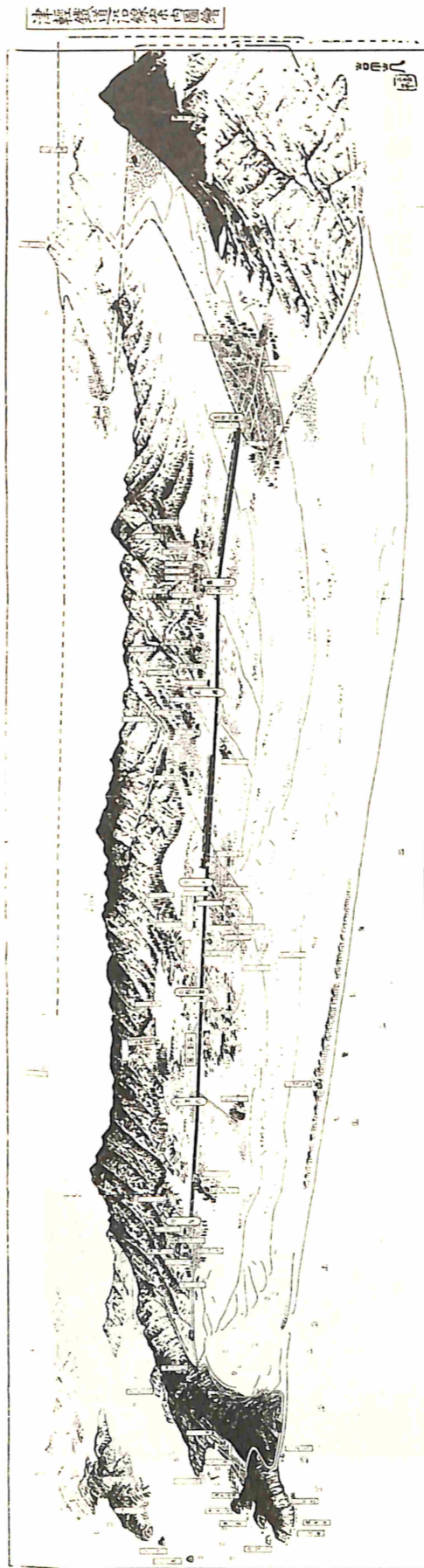


川倉三柱神社の鬼ツコ



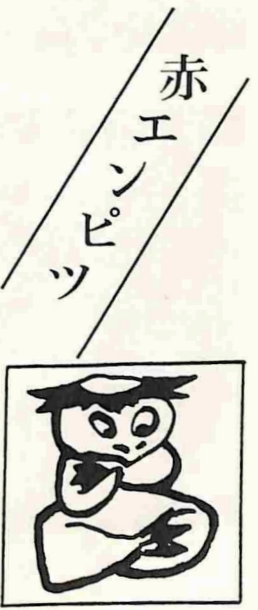
嘉瀬八幡宮の鬼ツコ

沢の鬼神社の鬼だそうだ。金木にも鬼ツコ、鳥居の上で通る人をにらみつけて居た。津軽の鬼は村を護り、悪人は村に入るなとふんばっている。嘉瀬の鬼、老いたがまだ健在。



会員名簿

会長	木村治利
副会長(編集委員)	高橋健一
副会長	白川章一
会計(編集委員)	櫛引八千代
会員(編集主幹)	木下清一
”(編集委員)	山中長三郎
”	秋元惣之進
”	須崎悠悦
”	小山内トモ子
”	葛西敏江
”	石戸谷恵子
”	木下俊藏
”	沢田薫
”	原田万治
”	逢坂伸三
”	福士栄子



とある春の日和の一日、嘉瀬観音山スキー場(立山)から九流れの丘に歩を運んでみた。現在は修学旅行はバス旅行と決っているが、終戦前は、この地帯は嘉瀬小学校低学年遠足(足で歩くことを遠足という)の場所であった。九流れの丘の芝生に座り四方を見渡して食うにぎり飯は、塩マスのショッパさが飯粒にしみ込んで格別の味となっていた。

五十有余年振り歩をはこんだ九流れは、往時馬草刈場を嘉瀬区有権利者各戸に売渡し、植林した結果、森林の形態に変わっていた。

アジマギクも、オキナ草も、センフリ草も絶滅、姿を消している。岩木山も、権現崎も、津軽平野も、木の生長と共に眺望できず、垣間見ることあたはず、昔の面影すでになく、馬草運びの馬のイナ鳴きも九流れの空に響かない。俺も今浦島になったのかナァ。

(きのした清一)

かたりべ第十六集

発行 平成十四年八月
発行所

(電話) わがふるさとを採る会
発行者 木村治利
編集 わがふるさとを採る会 編集委員会
印刷所 朝日印刷
五所川原市鎌谷町
(電話三四一三三一六)



金木さなぶり組一行＝金木八幡社前で獅子舞・荒馬・太刀打の納舞

五所川原市立図書館



008016101-0